

献 辞

二〇〇九年度をもって人文学部法律経済学科の櫻谷勝美教授が定年退職されます。

この献辞は通例、学部長が書くことになっておりますが、櫻谷先生は現在学部長を務められていますので、前学部長の私が書かせていただくことになりました。先生は一九八三年人文学部が発足した当時からの構成員で、人文学部をここまで育ててこられた方々のうちのおひとりで、この『法経論叢』とその発行母体である三重大学社会科学学会の創立にも尽力されたと伺っています。このような場で先生への献辞を書かせていただけることをたいへん名誉に存じます。

櫻谷先生は一九八七年に教授に昇任され、一九九五年度は法律経済学科の前身である社会科学学科の学科長、国立大学が法人化された二〇〇四年度からは四年に渡り評議員を務められました。この四年間は私が学部長を務めた期間でもあります。私は当時何もわからないままに学部長になり、学部運営だけでも精一杯なのに、学部を背負って全学の会議に出るときには本当に心細く、逃げ出したい思いでした。しかし、全学会議の中でも最も重要な研究教育評議会では櫻谷先生が横にいてくださり、その場で相談ができ、また適切な助言もいただくことができましたので、本当に心強く思いました。この二年間は逆に私が評議員として先生を支える立場にありましたが、力不足から十分にご恩返しができなかったことが心残りです。

その後、二〇〇八年度からは二年間学部長を務められ、この間、人文学部としては初めて地域貢献機能の充実のための特別研究経費として『医療過疎地域における多元的評価による『アラートシステム』の構築』の採択を成し遂げられ、また、中国南開大学日本研究院と研究科間協定の締結にも尽力されました。これらにより、人文学部および人文社会科学研究科が大学内だけではなく、地域、国際社会にとっても重要な存在であることを広くアピールすることになりました。短い間にこれだけの大きな功績をあげられたことに心から敬意を表し、また、学部構成員として御礼申し上げたいと思います。

先生は、学部内にあつては、特に学生の意見を聞くことを重視され、さまざまな学生の要望にも応えてこられました。学生用トイレの全面リニューアルを行い、学生たちが憩える学生ラウンジも間もなく完成します。

もちろん、先生はこのような大学運営だけに力を注いでこられたわけではありません。先生のご専門は日本経済史ですが、日本の対外経済関係のほか、三重県下の紡績史・銀行史、現代東アジア圏の貿易、マレーシアの日系企業の研究にも多くの業績をあげてこられました。

学生たちを連れてマレーシアや中国の日系企業の聞き取り調査に何度も出かけられ、学生たちの視野を広げるとともに、アジアからの留学生の教育にも尽力されました。また、地域においては、三重県史編纂

専門委員や四日市市史編集専門委員、三重県労働審議会会長などを務められるなど、そのご活躍をすべて紹介することは到底できません。

今回は、櫻谷先生と同時に、人文学部の誕生からおいでになった方が何人かご退職され、今後はもう当時のことをご存じの方もほとんどいらっしやらなくなります。今は大学にとつてかつてないような厳しい時代で、残された者にとつては寒空に放りだされたようで本当に心もとない思いがしています。しかし、先生がこの間育てられてきた学生たちは今や地域の中核となつて働いていますし、先生の背中を見て歩いてきた若い教員たちも必死にがんばっています。先生が育んでこられたこれらの力がこれから人文学部を、三重大学を、そしてこの地域をさらに発展させていくことでしょう。先生のいつもの暖かいまなざしとあのまわりを包み込むような笑顔で、どうぞこれからも私たちを見守ってください。

心からの感謝をこめて、先生にこの論文集を捧げたいと思います。

二〇一〇年三月

前人文学部長・評議員 井口 靖